

発掘調査の概要

飛鳥寺旧境内の調査（飛鳥藤原第197-6次）

2019年1月9日から3月1日まで、飛鳥寺旧境内の発掘調査をおこないました。調査地は安居院本堂の約160m北東にあたり、飛鳥寺の寺域東限を区画する施設の検出が期待されました。

調査区には古代の整地土が全面に広がり、この層の上面では、調査区のほぼ中央に石列1条、東端に石列3条を検出しました。

これより下層では、調査区中央部で柱穴1基と、大量の木屑や木製品などを含む落ち込みを検出したほか、東端の石列の下では柱根が残っている柱穴を1基検出しました。

出土遺物には、調査区中央部の落ち込みから出土した100点以上の削屑を含む木簡のほか、調査区全体から出土した飛鳥寺創建期の軒丸瓦を含む多量の瓦や、円面硯があります。

今回の調査は水路建設工事にともなうものであったため、調査区が限られており、検出した柱穴が南北方向の塀あるいは柵であるのかをあきらかにすることはできませんでした。しかし、2基の柱穴の東西には並ぶ柱穴が確認できなかったことから、飛鳥寺の寺域東限を区画する施設の一部ではないかとも考えられます。

調査区東端で検出した東西方向の石列に重複関係がみられることと、その石列の下で柱穴を検出したことから、調査地一帯の土地利用が短期間に繰り返しおこなわれていたことがわかりました。

今回の調査によって、これまで調査が希薄であった飛鳥寺東部一帯の古代における様相をあきらかにするための手がかりを得ることができました。

（都城発掘調査部 土橋 明梨紗）



調査区東端の東西方向の石列（北東から）

大官大寺南方の調査（飛鳥藤原第199次）

藤原京左京九条四坊・十条四坊に位置する、大官大寺。6町を占めるこの大寺院は、百濟大寺に起源をもつ官寺です。一昨年度より、大官大寺の南方の様相をあきらかにするために、継続的に地中レーダー探査と試掘調査を実施する計画を進めています。

昨年度は、2019年1月と2月に調査を実施しました。試掘調査は左京十一條四坊西北坪、大官大寺の中軸線のやや西側でおこないました。面積は65.5㎡です。また、地中レーダー探査は一昨年度の南側で約10,000㎡の範囲について実施しました。

試掘調査では東西溝1条、掘立柱建物1棟、斜行溝1条などを検出しました。調査区北半で確認した東西溝は幅70cm、深さ25cm程度で、十條大路南側溝の可能性がありますが、ただし、大路の側溝としては規模がやや小さく、推定位置とも少しずれるなど、確定するにはさらなる調査と検討が必要です。また、調査区南半の斜行溝は弥生時代の流路で、大官大寺周辺の旧地形や遺跡の形成過程を知るうえで貴重な成果です。

未調査地が広がる大官大寺周辺、小規模ながらも地道な調査を積み重ねることで、少しずつ様相をあきらかにしていきたいと思います。

（都城発掘調査部 和田 一之輔）



試掘調査区全景（南西から）